

第4章 業務概要

1 事業推進課

1.1 庶務

- (1) 所の庶務・維持管理
- (2) 有識者会議（アドバイザリーボード）
- (3) 研究所職員向け研修・研究発表の統括
 - ・安全衛生教育研修（2015年4月10日）
 - ・公用車（電気自動車）研修（2015年4月10日）
 - ・試薬の安全な取り扱いに関する講習会（2015年6月26日）
 - ・環境セミナー（2016年3月22日）
 - ・所内研修会－平成27年度業務報告会－（2016年3月23日・24日）
- (4) 研究所年報刊行、ホームページ管理

1.2 環境教育・学習業務

- (1) 環境学習教室等のイベントの開催

ア オープンラボ 2015

環境月間（6月）の事業として、環境問題に関する体験学習と施設公開を実施した。

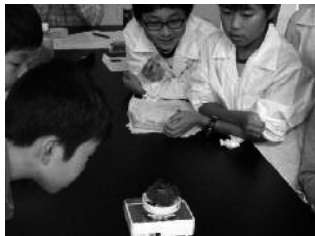
イ NPO法人等多様な主体と連携した環境教育の実施

市民団体や企業などの多様な主体と連携して環境教育を行うことを目的に、2013年度より委託事業を実施している。2015年度はNPO法人アクト川崎が受託し、次の講座を実施した。

- ・研究所の研究成果を活用した環境科学教室
 - (ア) 大人を対象とした環境科学セミナー（全3回）
 - (イ) 子供と保護者を対象としたこども環境科学教室（2回）
 - (ウ) 夏休み環境科学教室（全4回）
- ・研究所の立地条件を活かした多摩川河口干潟の生きもの観察会
 - (ア) 子供と保護者を対象とした干潟の生きもの観察会（全4回）
 - (イ) 大人を対象とした干潟の生きもの観察会（全2回）
 - (ウ) 多摩川河口の野鳥観察会（1回）



こども環境科学教室



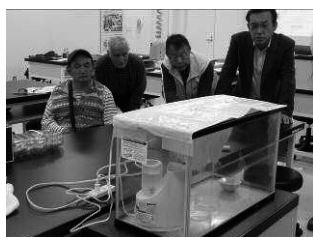
夏休み環境科学教室 1



夏休み環境科学教室 2



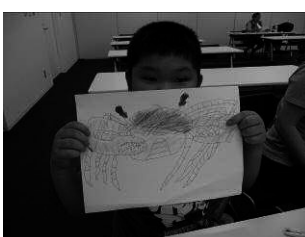
夏休み環境科学教室 3



環境科学セミナー



干潟の生きもの観察会 1



干潟の生きもの観察会 2



野鳥観察会

ウ 環境セミナー

市民及び職員を対象に水、大気、都市環境の分野を学ぶ講座の実施。2015年度は自動車対策等をテーマに実施した。



環境セミナー

エ 関係機関との協働事業の実施

夏休み多摩川教室、キングスカイフロント夏の科学イベントへの出展



夏休み多摩川教室 1



夏休み多摩川教室 2



夏の科学イベント

オ その他

新規イベントへの出展（2015年5月23日 エコ暮らしこフェアへの出展）やインターンシップ実習の受け入れ（2015年8月）



エコ暮らしこフェア



インターンシップ

(2) 出前教室

小中学校等からの依頼による環境科学教室、体験学習の実施



こどもエコチャレンジ



旭町小学校総合学習

2015 年度環境教育・学習事業概要一覧

No.	事業名	実施日	実施概要	対象及び 当日参加人数
1	エコ暮らしフェア	5月23日	環境に配慮した生活を楽しみながら学んでもらうことを目的に、川崎市環境局、中原区役所及び川崎フロンターレ等が共催する事業で、「つくろう！瞬間冷え冷えバック」のブースを運営した。省エネ地球温暖化対策として注目された瞬間冷却材を尿素と水の化学反応を利用して参加者が手作した。	小学生以上 44名
2	第1回干潟の生きもの観察会	6月3日	多摩川河口干潟の生きもの観察会、貝の浄化作用実験及び講義を予定していたが、雨天のため中止とした。(定員:20名)	18歳以上 —
3	第2回干潟の生きもの観察会	6月7日	多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:40名) 講師:佐川麻理子氏(NPO法人多摩川干潟ネットワーク代表理事)	小学生以上 及びその保護者 56名
4	オープンラボ2015	6月24日	「色から環境を考えよう!」をテーマに、ムラサキキャベツ液を使った酸性雨実験及び環境総合研究所の業務内容を広く理解してもらうための施設見学を実施した。(定員:40名)	小学4～6年生 32名
5	第3回干潟の生きもの観察会	7月1日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生き物の特徴をよりよく観察するためスケッチを実施した。(定員:40名)※雨天のため、生きもの観察とスケッチに変更した。 講師:佐川麻理子氏(NPO法人多摩川干潟ネットワーク代表理事) 川島逸郎氏(かわさき宙と緑の科学館学芸員、昆虫・生物画家)	小学生以上 及びその保護者 29名
6	夏休み多摩川教室	7月22日 23日	多摩川の水質や自然環境等へ持続的に興味を持ってもらうことを目的に多摩川流域協議会が開催する夏休み多摩川教室において、関係部署とともに「川の中の生きものコーナー」を実施した。川の中の魚や底生生物などを採取し、顕微鏡で観察を行った。	一般 152名 (全体 380名)
7	第1回夏休み環境科学教室	7月27日	「ミクロな世界をのぞいてみよう」をテーマに、顕微鏡の原理について学び、手作りの簡易的な顕微鏡を作成した。また、水処理に関係する微生物を顕微鏡で観察し、水質汚濁について学習した。(各回定員:30名)	小学4年～中学生 24名
8	第2回夏休み環境科学教室	7月27日	講師:長村吉洋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)	小学4年～中学生 26名
9	第3回夏休み環境科学教室	7月29日	「見えない空気を調べてみよう」をテーマに、空気の成分や性質に関する実験や大気汚染を学ぶために物の燃焼に関する実験を行う。(定員:30名) 講師:長村吉洋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)	小学4年～中学生 27名
10	星空ウォッチング inキングスカイフロント・夏	7月29日	星空観察を通して、大気環境について考え、身近な環境保全活動へのきっかけとして、「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催した。夏の星空に関する解説を行った。天体望遠鏡の星空観察は曇天のため実施できなかった。(定員:50名) 講師:弘田澄人氏(かわさき宙と緑の科学館担当係長)	小学生以上 57名
11	第4回干潟の生きもの観察会	7月31日	多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:40名) 講師:佐川麻理子氏(NPO法人多摩川干潟ネットワーク代表理事)	小学生以上及び その保護者 43名
12	インターンシップ実習	8月3日 ～13日 (うち5日間)	総務局主催のインターンシップ実習で、2名の大学生を受け入れた。期間中の環境教育・学習事業の運営補助、広報チラシの作成及びエコ暮らし未来館の視察等を行った。	大学生 2名
13	キングスカイフロント 夏の科学イベント	8月4日	総合企画局主催で、ライフサイエンス分野の企業・研究機関の集積を進めている「殿町国際戦略拠点キングスカイフロント」にて、立地研究機関等によるイベント「キングスカイフロント夏の科学イベント」を実施した。LISEや実験動物中央研究所で行われた「キングスカイフロント夏の科学イベント」において、「研究所探検」及び「作ろう！瞬間冷え冷えバック」等のブースを担当した。	一般 (全体 900名)
14	水環境体験ツアー	8月5日	環境対策課、上下水道局及び港湾局の共催業務として、水環境について親しみ、学んでもらうために開催された「水環境体験ツアー」において、講義と施設見学を実施した。	大人 36名
15	川崎市青少年の家 「こどもエコチャレンジクラブ」 (出前教室)	8月7日	青少年の家が開催する「こどもエコチャレンジクラブ」の活動の一環として出前教室を実施し、顕微鏡の使用方法和、大気について理解や関心をもつことを目的とし、マツの葉の気孔を顕微鏡で観察し大気汚染の状況を調べる体験を行った。	小学4年～中学生 22名
16	第4回夏休み環境科学教室	8月11日	「水の不思議を調べてみよう!」をテーマに水の様々な性質や、水質に関する実験を行った。(定員:30名) 講師:長村吉洋氏(川崎市地球温暖化防止活動推進センター)	小学4年～中学生 23名
17	第5回干潟の生きもの観察会	8月13日	「干潟の生きもの観察とスケッチ」をテーマに、多摩川河口干潟の生きものを採取し、生き物の特徴をよりよく観察するためスケッチを実施した。(定員:40名) 講師:佐川麻理子氏(NPO法人多摩川干潟ネットワーク代表理事) 川島逸郎氏(かわさき宙と緑の科学館学芸員、昆虫・生物画家)	小学生以上及び その保護者 28名
18	第1回こども環境科学教室	9月5日	「矢上川の生きもの調べ」というテーマで、矢上川において魚とり体験と水辺の生きものの観察を実施した。(定員:30名) 講師:庄司佳子氏(矢上川で遊ぶ会代表)	小学生～中学生 及びその保護者 26名
19	第6回干潟の生きもの観察会	9月13日	多摩川河口干潟に生息している生物の講義及び、干潟の生きもの調査と二枚貝による水の浄化実験を実施した。(定員:20名) 講師:佐川麻理子氏(NPO法人多摩川干潟ネットワーク代表理事)	18歳以上 13名
20	第1回環境科学セミナー	9月15日	「川崎タイム・マシン～『環境』×『川崎の過去・現在・未来』」をテーマに、川崎の公害への克服にむけた歴史、環境対策への理解を深め、現在起こっている環境問題への対応について考えることを目的とし、講義及びワークショップを実施した。(定員:20名) 講師:井上俊明氏(NPO法人環境研究会かわさき代表) 環境総合研究所都市環境課 荻原朗担当課長	18歳以上 7名

21	第2回環境科学セミナー	10月13日	「21世紀の大課題『気候変動』、その現状と対応策」をテーマに、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）報告書を読み解き、又地球温暖化に関する実験を行う。求められる対応策（緩和策・適応策）から、未来の子どものために、市民として出来ることを考えた。（定員：20名） 講師：竹井斎氏（川崎市地球温暖化防止活動推進センター、IPCCリポートコミュニケーター） 環境総合研究所都市環境課 高垣勇介職員	18歳以上 10名
22	旭町小学校総合学習授業	10月22日	市立旭町小学校からの依頼により、「川崎の環境について」をテーマに、班にわかれ、環境総合研究所について説明と見学、及び大気汚染の状況を調べるマンの葉の気孔観察実験を実施した。	旭町小学校5年生 及び教員 54名
23	第2回こども環境科学教室	10月25日	「地球温暖化、二酸化炭素について調べてみよう」とテーマに、二酸化炭素の性質を様々な実験から確かめ、日々の生活と二酸化炭素の関係や、地球環境について考えることを目的として実施した。（定員：40名） 講師：長村吉洋氏（川崎市地球温暖化防止活動推進センター）	小学4年生～中学生 及びその保護者 31名
24	第3回環境科学セミナー	11月10日	「東アジアの越境大気汚染の現状と課題、川崎の大気環境問題」をテーマに、東アジア地域の酸性雨を始めとした、微小粒子状物質（PM2.5）やオゾンなどの越境大気汚染の最新の研究動向について、また川崎における近年の大気環境問題とその対策についての講義を行った。酸性雨発生実験と水質調査を行った。（定員：20名） 講師：村岡良介氏（一般財団法人日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター） 井上俊明氏（NPO法人環境研究会かわさき代表）	18歳以上 11名
25	多摩川河口の野鳥観察会	11月29日	多摩川河口に生息する野鳥及び双眼鏡の使用など野鳥観察の予備知識についての講義及び観察を実施した。（定員：40名） 講師：石井一与氏（日本野鳥の会会員） 水田茂子氏（川崎市自然調査団野鳥班）	小学生以上 42名
26	星空ウォッチング inキングスカイフロント・冬	2016年 1月29日	「かわさき宙と緑の科学館」と共同で開催し、すばるやオリオン大星雲に関する解説及び天体望遠鏡での星空観察を予定していたが、雨天のため中止した。（定員：60名）	小学生以上 -
27	2015環境セミナー	3月22日	「かわさきの環境 今・昔」をテーマに川崎市の公害の歴史、その公害を克服してきた環境政策に関する講義（第1部「川崎市の大気汚染－自動車対策について－」）及び研究所職員から新たな環境問題に関する講義（第2部「環境総合研究所の国際貢献の取組－中国アジア諸国との都市間連携－」）を実施した。（定員：60名） 講師：柴田幸雄氏（NPO法人環境研究会かわさき副理事長） 環境総合研究所事業推進課 小森章一課長補佐	市民及び職員 44名

(3) 教材の活用

- ア 環境学習用教材（すごろく型エコライフゲーム等）の貸出
- イ 環境学習用冊子等の配布
 - ・環境学習用冊子・教材「水辺の生きもの」冊子・下敷きの配布
 - ・環境学習用冊子「大切な大気のはなし」の配布



大切な大気のはなし

1.3 国際展開・環境技術情報業務

- (1) 国連環境計画（UNEP）等との連携事業
 - 「第12回アジア・太平洋エコビジネスフォーラム」の開催（2016年2月18日）
- (2) 環境技術情報の収集・発信
 - ア 環境技術情報ポータルサイトによる環境技術情報の収集・発信
 - イ アーカイブスペースの管理・運営
- (3) 中国・瀋陽市との連携・協力
 - 第18期瀋陽市環境技術研修生の受入（2015年10月25日～11月22日、研修生2名）
- (4) 海外からの環境技術に関する視察・研修受入
 - 2015年度環境局視察受入数：中国、アルメニア共和国、インドネシア共和国、スリランカ、ミャンマーなど28件（310人）

2 都市環境課

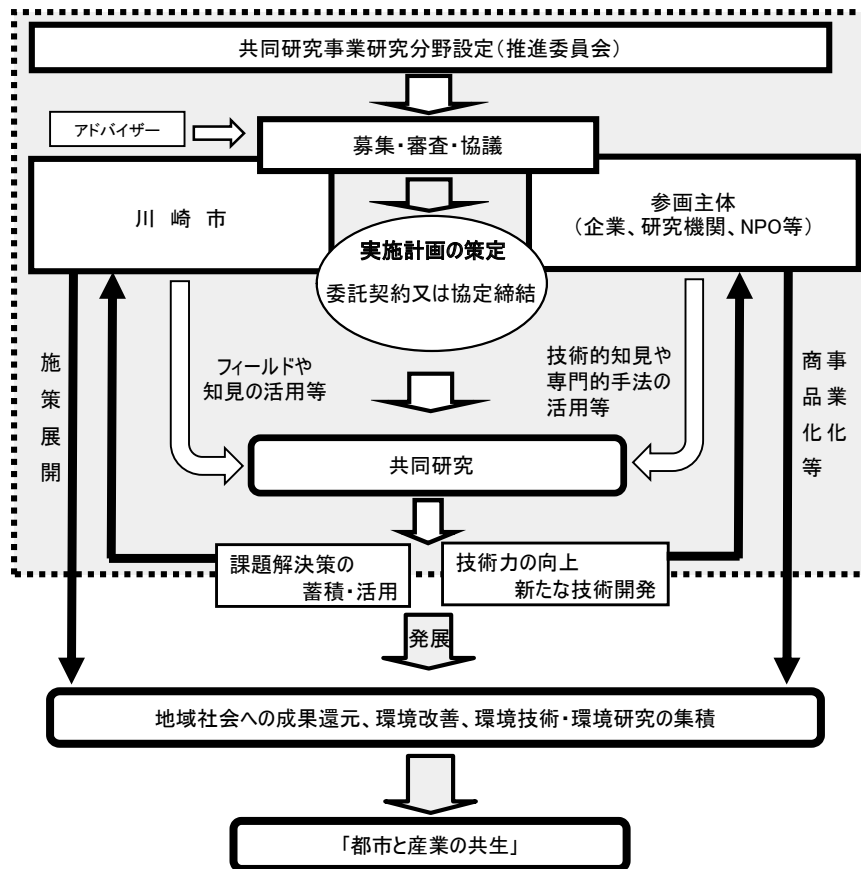
2.1 都市環境研究業務

- (1) 地球温暖化対策に関する調査研究
 - 温室効果ガス排出量に係る調査研究
- (2) ヒートアイランド現象に関する調査研究
 - ア 気温分布に関する調査
 - イ 熱中症発生状況と気温との関係に関する調査研究

2.2 産学公民連携業務

(1) 環境技術産学公民連携共同研究事業

2015年度の共同研究事業は、6件（公募型共同研究事業5件、連携型共同研究事業1件）を実施



環境技術産学公民連携共同研究事業の流れ

ア 公募型共同研究事業

毎年度公募を行い、選定した研究テーマについて、委託事業として実施する共同研究事業。

(ア) エアロゾル複合分析計のフィールド評価 (共同研究者：富士電機株式会社)

富士電機株式会社（東京都日野市）と本市は、富士電機・東京大学・海洋研究開発機構が共同で開発したエアロゾル複合分析計の有効性を実証するため、2013年度から2015年度まで市内のフィールドにエアロゾル複合分析計を設置し、市の行っているPM2.5の環境省の成分分析ガイドライン及び成分測定マニュアルに従った分析結果との比較及び発生源での測定方法等の検証を実施した。

2013年度は、一般環境大気測定局において夏季と冬季のデータを取得し、市の測定との整合性の実証など装置の有効性を検証した。2014年度は、装置を改良し、引き続き3か月半にわたるフィールド評価を実施し、長期間の連続測定を実証した。2015年度は、発生源対策の将来像を見据え発生源の排ガス粒子をリアルタイムで測定するための技術的手法を道路沿道やスポーツセンターで検証した。また、この研究期間中には富士電機としてエアロゾル複合分析計の製品化にもつながった。

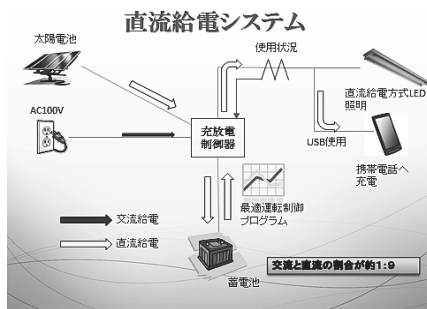
PM2.5対策には発生源の解明が重要であり、その際に必要となるのがPM2.5の粒子成分のリアルタイム測定のデータである。“エアロゾル複合分析計”はこれまで困難であった粒子成分のリアルタイム分析ができ、測定データの時間変化や気象情報等を統合して解析することで、PM2.5の実態解明のための基礎的データが得られるため、今後は将来的な排出監視に必要な技術として、PM2.5対策に関する貢献を目指していく。



(イ) 直流給電方式による省エネ型電源に関する研究

(共同研究者：東京整流器株式会社)

東京整流器株式会社（川崎市多摩区）と本市は、再生可能エネルギーの利用効率を向上させる直流給電システムの検証のため、2013年度から2015年度まで、川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）屋上に、太陽光発電と蓄電池を組み合わせたパワーコンディショナー（インバーター）を使用しない直流給電方式の実証用省エネ型電源システムを設置し、発電から充電に至るデータや既存の太陽光発電システムとの比較等を行った。



2013年度は、直流給電技術の実証として実証装置を設置し、パワーコンディショナーを介する従来のシステムでは発電できないとされる日の出直後や日の入直前の時間帯においても1Wから発電できることを確認し、システムの優位性を実証した。2014年度は、システムを改良し、日照時間の短い冬季における長期間実証を行った。2015年度は、機器への負担の大きい夏季を含めた更に長期間のデータを取得し、年間を通したシステムの安定性の実証及び製品応用についての検討を行った。

一般の太陽光発電システムでは、太陽光パネルで発電した電気をパワーコンディショナーで直流から交流に変換しており、その後も電化製品に

供給される間に数回の電力変換を行っている。系統を直流化することでこの電力変換を最小限にし、変換による発電効率の低下を減らし、太陽光発電システムをより高効率で使用するというものであり、今後、直流給電技術の普及やシステムの施設導入を進めることによりスマートシティの構築や省エネ化促進への貢献を目指していく。

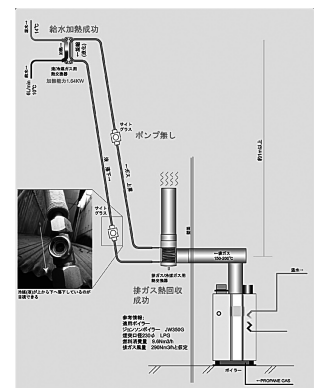
(ウ) 200℃未満の未利用熱を利用した発電システムのための周辺技術の検証

(共同研究者：一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会)

一般社団法人 持続可能で安心安全な社会をめざす新エネルギー活用推進協議会（宮城県仙台市）と本市は、工場等でエネルギーとしては未利用域である、低温度領域（概ね200℃未満）の熱利用の促進に向け、2014年度から市内事業者等の協力を得て熱利用技術の検証等を行っている。

2014年度は、市内中小企業における排熱の種類や排熱利用に関するニーズ調査及び、浮島処理センターをフィールドとしたバイナリー発電機の実証を行い温度差50℃の排水における約1kWhの発電データを得た。2015年度は、市内企業の協力を得て、排ガスを対象とした熱交換やヒートパイプを組み合わせた熱回収技術の実証（右図）を行った。

本市にも多い、中小事業所等からの少量・低温度域の排熱を排出者自身が利用（未利用エネルギーの有効活用）することで、省エネ効果やヒートアイランドの原因となる排熱の抑制効果など、低炭素化への貢献を目指していく。



(エ) 環境情報・写真データを用いたコミュニティ活性化支援に関する共同研究

～川崎タイムマシン～「環境」×「川崎の過去・現在」を対話する

(共同研究者：学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）)



学校法人国際大学国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（東京都港区）と本市は、ライフスタイルの多様化等が進む現在において低下している地域コミュニティの活性化のため、2014年度から「環境」を切り口とし、本市の過去と現在との比較を素材としながら地域社会におけるコミュニケーションを活性化する方法やプロセスの確立を目指し研究を行っている。

2014年度は、市の保存している古い映像や写真を集め分類し、3つのテーマ（「公害」・「山間部・平地」・「臨海部」）で映像データを編集。その活用方策についてワークショップやイベント出展により市民から直接声を集め検討を行った。2015年度は、身近な環境問題のひとつである“路上ゴミ”を題材とし、市内の複数箇所の路上ゴミを調査・オープンデータ化し可視化するとともに、各

地の特徴や地域課題を考察するワークショップを開催し、環境コミュニケーションの活性化手法について研究を進めた。

市民が身近な環境課題に対処していくための手法を研究し、地域の課題解決力の向上への貢献を目指していく。

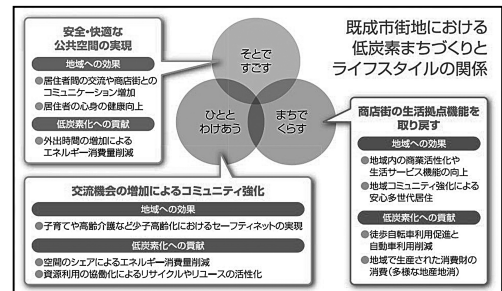
(オ) 地域活性化と環境共生を両立する低炭素コミュニティの実現手法に関する研究

(共同研究者：学校法人五島育英会東京都市大学)

学校法人五島育英会東京都市大学（東京都世田谷区）と本市は、スマートシティ事業における既成市街地への普及展開に向け、既存商店街の活性化を軸に2014年度から市内の既存商店街とその周辺地域を対象に汎用性のある低炭素コミュニティの実現手法について研究を行っている。

2014年度は、市内の地域特性のデータベース作成や商店街や市民団体を対象に聞き取り等を行い、低炭素商店街の実現への課題等の抽出を行った。また、対象地域として多摩区の登戸東通り商店会と区役所通り登栄会商店街振興組合とその周辺地域を決定し、更には多摩区まちづくり協議会多摩エコスタイルプロジェクトも加わり、具体的なエコ活動についての検討を行った。2015年度は、地域関係者と定期的な会合を開き、商店街の低炭素活動（イベント開催、エコポイントカード）の実施を中心とした効果検証や対象地域の建物データベースの作成を行った。

商店街の低炭素活動を中心に周辺住民の低炭素型ライフスタイルを促進させる、地域主導型の低炭素まちづくりの実現手法を確立し、普及することで環境共生、地域活性化を目指していく。



イ 連携型共同研究事業

多様な連携のスタイルに対応するため、2014年度に「環境技術産学公民連携共同研究事業に係る申請及び実施に関する要領」を改正し、新たに位置づけたフィールド提供を中心とした共同研究事業。

既設太陽光パネルの洗浄方法と発電効率に関する実証

(共同研究者：フジクス株式会社)

フジクス株式会社（川崎市川崎区）と本市は、2015年1月に共同研究に関する覚書を締結し、普及しつつある太陽光発電システムの経年劣化や発電効率の低下に対し、その性能回復について、洗浄の効果及び洗浄方法に関する研究を行っている。

2014年度は、2015年1月に市立西丸子小学校をフィールドとした試験洗浄を実施し、その効果検証として1年間のデータ収集を行った。2015年度は2016年2月に市内メガソーラーにおいて試験洗浄を行い、非洗浄部分との比較により、その効果及び効果保持の状況を検証中である。



(2) 共同研究事業に係るセミナーの開催（2回）

ア キックオフセミナー（2015年8月10日）

2015年度に選定した公募型共同研究事業5件に係るキックオフセミナーを開催。出席者35名

イ 成果報告会（2016年3月17日）

2015年度に実施した公募型共同研究事業の成果を報告するためのセミナーを開催。出席者39名

(3) 川崎国際環境技術展への出展

2016年2月18・19日に開催された川崎国際環境技術展へ出展し、産学公民連携事業について、これまでに実施した共同研究の事例紹介及び2015年度に実施した共同研究事業について情報発信を行った。

2.3 プロジェクト研究業務

- (1) 国際貢献の推進に向けた研究
 - ア マレーシア国ペナン州「Waste to Energy 技術」による低炭素都市形成支援事業
 - イ インドネシア共和国バンドン市・川崎市との都市間連携による低炭素都市形成支援事業
- (2) 低炭素都市に係る総合的な研究
 - ア 地球温暖化による生活リスクに対する市民の意識に関する研究
- (3) 環境施策に係る総合的な研究
 - ア バイオアッセイを用いた環境評価及び生態影響評価に向けた取組
 - イ 複数の汚染物質による複合的な影響を視野に入れた大気汚染政策アプローチに関する研究

3 環境リスク調査課

3.1 環境リスク評価研究業務

- (1) 環境リスク評価に関する調査研究
 - ア 化学物質の健康影響に係る環境リスク評価に関する調査研究
 - イ 大気拡散モデルを用いた暴露量評価に関する調査研究
- (2) 有害大気汚染物質に関する調査研究
 - ア 有害大気汚染物質のモニタリング調査（揮発性有機化合物（以下、VOC）及び多環芳香族炭化水素類）
 - イ 有害大気汚染物質の臨海部平面分布調査（VOC 及び多環芳香族炭化水素類）
- (3) オゾン層破壊物質及び地球温暖化物質に関する調査研究
- (4) 工場・事業場における VOC 排出実態調査

3.2 環境化学物質研究業務

- (1) 大気環境及び水環境中の化学物質に関する調査研究
 - ア 川崎市化学物質環境実態調査
 - イ 市内河川及び海域における農薬調査
- (2) 化学物質の高精度分析に関する調査研究
 - 難分解性化学物質の高精度分析手法検討
- (3) 地下水汚染及び土壌汚染に関する調査
 - ア 汚染井戸に関する水質の継続調査（VOC）
 - イ 土壌汚染に係る地下水質調査（VOC）
- (4) 工場・事業場の排水に含まれる VOC 調査
- (5) 水質事故・苦情に伴う調査（農薬、油類等）

3.3 生物学的調査研究業務

- (1) 生物応答を利用した環境リスク評価手法の検討
- (2) 水質汚濁及び生物多様性に関する公共用水域調査
 - ア 河川の水質及び水生生物調査
 - イ 親水施設の水質及び水生生物調査
 - ウ 多摩川河口干潟の生物及び底質調査
 - エ 東扇島東公園人工海浜の生物調査

3.4 他機関との共同調査・研究

- (1) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）
 - 「国内における化学物質審査規制法関連物質の排出源及び動態の解明」
- (2) 神奈川県・横浜市との共同研究
 - 「POPs 等難揮発性化学物質の大気環境中における動態」
- (3) 環境省受託調査化学物質環境実態調査（分析法開発及び環境調査）

4 地域環境・公害監視課

4.1 大気調査研究業務

- (1) PM2.5 の成分分析に関する調査研究
 - ア 一般環境及び道路沿道における微小粒子状物質 (PM2.5) の濃度実態調査
 - イ 微小粒子状物質 (PM2.5) の成分調査及び発生源寄与率調査
- (2) アスベストに関する環境調査
 - ア アスベストの一般環境調査
 - イ 建屋解体等に伴うアスベスト調査
- (3) 酸性雨に関する調査
- (4) 降下ばいじんに関する調査

4.2 水質汚濁防止対策業務

- (1) 工場事業所排出水の水質及び工程調査
 - ア 工場・事業場排出水の水質調査
工場・事業場の排出水に含まれる規制項目 (VOC を除く) の水質検査
 - イ 工場・事業場における排水処理施設の維持管理に関する調査
- (2) 土壌汚染による周辺環境に関する調査研究
 - ア 土壌汚染に係る地下水質 (VOC を除く) 調査
- (3) 汚染井戸継続調査
 - ア 地下水汚染継続調査
汚染井戸に関する水質 (VOC を除く) の継続調査 (特定有害物質等製造等事業所の地下水質調査、汚染井戸継続調査)
 - イ その他の地下水質 (VOC を除く) 調査

4.3 苦情・事故等に伴う調査業務

- (1) 大気・水質に係る苦情・事故等に伴う原因物質究明調査

4.4 環境大気常時監視業務

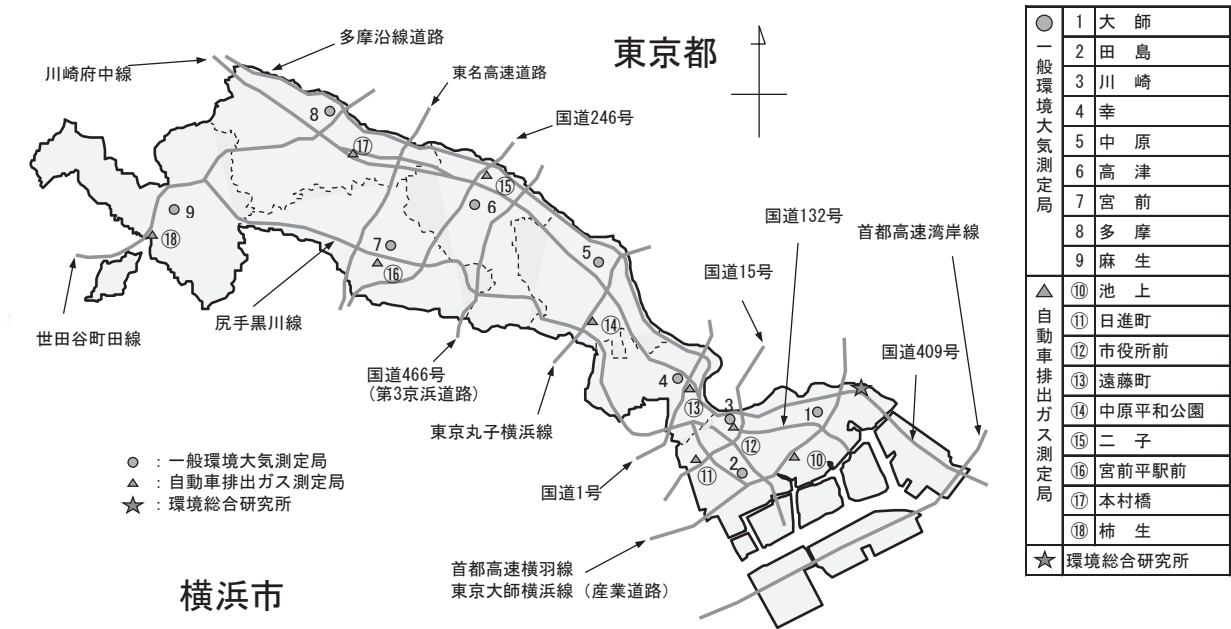
- (1) 一般大気環境常時監視測定
一般環境大気測定局 9 局での環境大気常時監視の実施
- (2) 道路沿道大気環境常時監視測定
自動車排出ガス測定局 9 局での環境大気常時監視の実施
- (3) 常時監視機器、測定局の維持管理
 - ア 測定局舎及び測定機器の維持・整備
 - イ 測定結果等の情報提供内容の充実
- (4) 原子炉施設周辺及び市内の環境放射能調査
 - ア 原子炉施設周辺の施設排水及び上水の放射能濃度調査
 - イ 原子炉施設周辺の堆積物及び土壌の放射能濃度調査
 - ウ 原子炉施設周辺の大気浮遊じん、定時降水及び月間降下物の放射能濃度調査
 - エ 原子炉施設周辺の空間ガンマ線量率調査
 - オ 原子炉施設周辺の放射線積算線量調査
 - カ 市内における空間放射線量調査
 - キ 市内における土壌の放射性物質濃度調査

4.5 他機関との共同調査・研究

- (1) 関東地方大気環境対策推進連絡会 浮遊粒子状物質調査会議合同調査
関東地域における微小粒子状物質等の実態把握
- (2) 神奈川県公害防止推進協議会 PM2.5 等対策検討部会
県内における微小粒子状物質等の濃度及び成分組成調査

(3) 国立研究開発法人国立環境研究所と地方研究所等の共同研究（Ⅱ型）
「PM2.5の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」

大気常時測定監視網



一般環境大気測定局 2016年3月末現在

地 区	測定局名（設置場所）
大 師	大師（川崎区役所大師分室）
田 島	田島（田島支援学校）
川 崎	川崎（市役所第4庁舎）
幸	幸（幸スポーツセンター）
中 原	中原（中原保健福祉センター）
高 津	高津（生活文化会館）
宮 前	宮前（宮前平小学校）
多 摩	多摩（登戸小学校）
麻 生	麻生（弘法松公園）

自動車排出ガス測定局 2016年3月末現在

地 区	測定局名（設置場所）
田 島	池上（池上新田公園前）
川 崎	日進町（都市機構川崎日進市街地住宅敷地内）
川 崎	市役所前（市役所前）
幸	遠藤町（御幸小学校）
中 原	中原平和公園（中原平和公園）
高 津	二子（高津区役所道路公園センター）
宮 前	宮前平駅前（上下水道局管理地）
多 摩	本村橋（本村橋）
麻 生	柿生（麻生消防署柿生出張所）